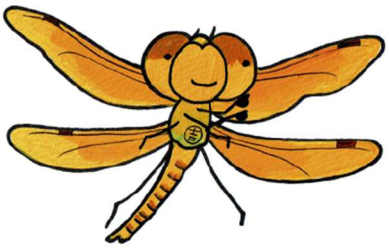

協力：風早活性化協議会

オオキチくん通信

こんにちは！オオキチくんです。
秋にはだいじなしごとがあるんだ！
それは卵（たまご）をうむことです。
産卵（さんらん）といいます。

2019年10月号
発行：NPO法人森からつづく道
URL:http://morimichi.org/
★上記HPからダウンロードできます
独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて作成しています。

秋のオオキトンボ

オスはメスを見つけると交尾（こうび）をします。（左がオス）

オスはため池のまわりでなわばりをつくってメスを待ちます。

オスのなわばりや産卵の観察は、晴れた日の10～13時ころ！！

夜や雨の日は、ため池の近くにある草むらでじっとしています。

水がへって出てきた水ぎわに産卵（さんらん）します。（下がメス）

（写真 橋越清一氏）

（武智礼央）

風早にぎわいレトロまつり2019 ことしは、河野別府こうえん！

まいとしにぎやかなレトロまつり。ことしはステージイベントで、北条の7地区（ちく）のわがまちじまんがあるんだってね！練習（れんしゅう）している人もいるんじゃないかな？楽しみにしているよ！
森からつづく道も、テントで生きものフィギュアや、ドライフラワーなどを使ったクラフトコーナーやてんじをします！遊びに来てね！

【と き】 **11月4日（月・祝）9:30～15:00**
【ところ】 河野別府公園（文化の森）

ステージイベント、食べものや飲みもののブース、てんじやざっかのブース、たいけんができるブースなど、たくさんのテントがならびます。スタンプラリーがあって、スタンプをあつめたら、抽選会（ちゅうせんかい）に参加（さんか）できます。いいものがあたるかも！！

あのムシは今？！【ツチイナゴ】

体長 50~70mmほど

秋になると成虫（せいちゅう）になり、成虫で越冬（えっとう）します。体の色は、幼虫（ようちゅう）は緑色ですが、成虫は茶色。複眼（ふくがん）の下になみだのような黒色のラインが入るのが特徴（とくちょう）です。

（久松定智）

なんかステキな名前は、江戸時代にシーボルトさんが持ち帰った標本（ひょうほん）を研究したオランダの学者の名前から。アマガエルとよくにた黄緑色ですが、アマガエルには鼻先から目の後ろのこまくにかけて、黒い線がありますが、シュレーゲルにはありません。3～6月に水ぎわにあなを作り、ペアで卵を生みます。

風早にすむカエル④
シュレーゲルアオガエル

童謡「虫のこえ」に登場する昆虫たち♪

（武智礼央）

●**スズムシ**（リーンリーン）
しげみや石垣（いしがき）にいて発見は少し難しい。

●**クツワムシ**（ガチャガチャ・・）
クズの葉が大好物。県で絶滅（ぜつめつ）が心配されている。

●**アオマツムシ**（リーリーリー）
中国原産。この時期、街路樹（がいろじゅ）から聞こえてくる声はたいていこの虫。

●**エンマコオロギ**（コロコロリー）
畑などにいる大型コオロギ類。

●**ハヤシノウマオイ**（スイーッチョン）
開けた環境（かんきょう）には「ハタケノウマオイ」がいる。

●**マツムシ**（チン・チロリン）
河原やため池の堤体（ていたい）などに多い。後脚（あし）が長い。

風早の景色

2年前の9月末日、田村池での産卵の様子です。この年は多くのオオキトンボが帰ってきました。今年も高縄山あたりで避暑（ひしょ）したトンボたちが、成熟（せいじゅく）して茶色がかったオレンジ色になって、産卵しに帰って来てほしいですね。

今月の花　★ガガイモ

里山などに生育するキョウチクトウ科の多年草（たねんそう）のつる植物だよ。葉はハート形を少しのばしたような形で、くきや葉を切ると白いしるが出るよ。夏から秋にかけてうすいむらさき色の花を咲かせます。種子の白いわた毛（種髪という）は、昔、わたの代用として針さしや印肉（いんにく）に使われたらしいよ。

ちょっといっぷく

雄甲山のガーネット

善応寺の後ろにそびえる雄甲山（おんごやま）。頂上近くの風化（ふうか）した安山岩（あんざんがん）の小石をこんきよくさがすと、赤くかがやくざくろ石（ガーネット）が見つかることがあります。ただ小さくて宝石には使えません。

そうやったんかい！　外来生物 ⑧

イヌキクイモ

空地などに見られる北米原産のキクのなかま。黄色の花びらのように見える舌状花（ぜつじょうか）の先がとがること、舌状花の数が10枚以下なこと、いもが小さいなどで、栽培されているキクイモ（いもは食用となるので道の駅などで売られている）と区別できるから、見つけたらよく観察してね。